



2021年1月25日

各位

会社名 株式会社SERIOホールディングス
代表者名 代表取締役社長 若 濱 久
(コード番号：6567 東証マザーズ)
問合せ先 取締役管理本部長 後 谷 耕 司
(TEL. 06-6442-0500)

2021年5月期 第2四半期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

この質疑応答集は、1月20日に開催いたしました2021年5月期 第2四半期決算説明会（アナリスト・機関投資家向け）にて、ご出席の皆さまからいただいた主な質問をまとめたものです。なお、理解促進のために一部内容の加筆修正を行っております。

Q1.	離職率低下の背景と継続性について教えて欲しい。
A1.	離職率の低下について、結果として上半期の定着率は良かった。おそらくコロナ禍において転職意欲が低下したのだと考えている。 また、当社ではいち早く雇用を守ることを宣言した。国の補償が明確ではなかった時点でパート職も含め、給料の100%保証を打ち出したことも従業員の安心感につながったと考えている。 施設運営において従業員の定着はとても大切である。定着率を改善するため、これまで以上に研修制度を充実し、今年度はメンター制度を導入し従業員のフォローアップに注力した。アフターコロナにおいても定着率にはこだわっていくので、今後も改善していくと考えている。
Q2.	就労支援事業の大型案件の規模を教えて欲しい。
A2.	年間で約1億円規模の契約が前期にスタートしている。コロナの影響により売上が縮小している契約もあったが、全体をカバーできている。
Q3.	就労支援事業での契約単価見直しによる増収額を教えて欲しい。
A3.	昨年の4月から同一労働同一賃金が実施され、契約単価の値上げをしてもらっている。比例して賃金も上げている。利幅も増えているが、そこまで大きな影響ではない。
Q4.	就労支援事業で下半期（12月～5月）が上半期（6月～11月）に対して減収となる理由を教えて欲しい。
A4.	当社の就労支援事業の大きな特徴として、家電メーカーの修理受付業務が多い。エアコンの修理受付が多くなる夏場が繁忙期であり、7月、8月がピークとなる。これが当社の季節変動のパターンとなる。 しかし、先述の大型案件の獲得に加え、新規開拓を積極的に行っており、季節変動要素は軽減される傾向になると考えている。今後の新規契約の内容によっても変動すると考えている。

Q5.	投資額を考慮しても、下半期の利益率が上半期に比べ低下する理由を教えて欲しい。
A5.	<p>当社事業の特徴として4月に新規施設の開園が集中する。今年は保育施設6施設、放課後施設13施設（純増10施設）を開園する予定である。人材の投資、採用コストもラストスパートで下半期に結構な投資を行う。また、4月1日に従業員が増えるわけではなく、前倒しで入社し、研修・育成を行うので人件費も積み上がっていく。</p> <p>加えて、保育に関しては、施設の机や椅子など様々な設備投資が必要になる。資産に計上するものと、経費として扱うものがあり、特殊な投資を除いても費用がかかってくる。</p>
Q6.	保育士の採用環境について教えて欲しい。
A6.	<p>保育士の採用環境はコロナの影響は感じられず、変わらず売り手市場である。保育施設が増える一方で、新規の学生が増えてはいないので、当面は楽な状況にはならないと考えている。その為、離職者を減らすことがとても大切な取組みになるので力を入れている。</p> <p>しかし、今年4月の新規施設採用に関してはほぼ充足できている。業界において、当社の採用は比較的スムーズに進んでいると考えている。</p>
Q7.	来期以降の保育園、学童の出店ペースの考え方を教えて欲しい。
A7.	見通しではあるが今後3年程度は変わらず、放課後施設10施設、保育施設5施設を標準のスピードとしていきたいと考えている。
Q8.	コロナ禍一巡後に想定される生活様式の変化（テレワークの定着による就労支援、放課後、保育事業）に対する影響を、どのように考えているか？
A8.	<p>就労支援事業では、テレワークが定着し、コロナ禍一巡後に働き方が元に戻るかといえば戻らないという見方をしている。画一的にフルタイムや正社員でなければ駄目という文化がなくなってきている。在宅勤務も含め、多様な働き方を企業が受容する環境・文化に急速に変化しているのではないかと認識している。当社も様々な工夫を行う必要性はあるが、大いにチャンスがあると考えている。</p> <p>保育事業では少しネガティブな話になるが、今年4月の0歳児の入園が少し鈍っているように感じている。これは多様な働き方を推進していく中で、育児休暇が取りやすい、休暇期間を長く取得できる企業が非常に増えていることや、コロナ禍において4月から0歳児の子どもを保育園に預けて復職する必要はないと考える方も出ているからではないかと想定している。同業者間の情報交換においても0歳児の入園については芳しくないという動きがあると認識している。</p> <p>ただし、例年4月は0歳児の入園を多くは見込んでいない。1年の折り返しぐらいで充足すればよいと考えているため、業績への影響はそれほど大きくないと考えている。</p>

Q9.	来期の有望な点と心配な点を教えて欲しい。
A9.	<p>心配な点について、大きな経営のリスクと捉えているのが、従業員と施設に通う子どもたちの安全の確保だ。従業員は増え、保育施設では1,500人以上、放課後施設では約5,000人の子どもたちが毎日利用している。その安全確保が最も大事である。しっかりと対策を行い、できることを着実に実行していく方針だ。</p> <p>有望な点について、今期も前期と比べ利益が増加している。まだまだ小さい利益額ではあるが、利益率の向上を図ることができている。上場後、本部体制に人員の投資を行ったため、販管費が先行し利益を圧迫していたが、一定の整備、投資が整いつつある。現状は売上の増加に比例して販管費を増やすことなく事業活動を進められており、今後も売上を拡大していくことによって利益率の改善を図れると考えている。</p>

以上